

寺社Now

www.jisya-now.com

寺社の“いま”を伝える情報誌

vol.12

巻頭特集

シリーズ 知って活かす公的制度②

文化財保護と観光支援における
助成金と補助制度

PICK UP

外国人が正しく理解できる
文化財の英語解説のあり方

インタビュー

法相宗大本山 薬師寺 管主

村上 太胤

2017 新年のお慶びを 申し上げます

おかげさまで本年度2月をもちまして当協会は3周年を迎えます。
今春、大阪市天王寺区下寺町に文化体験×宿泊施設「和空 下寺町」が開設されます。
今年も「ひとりでも多くの方に社寺に足を運んでいただくために活動する協会」を
コンセプトに、全国の伝統社寺の魅力をよりたくさんの方に発信していき、
日本文化そのものである伝統社寺を観光面でサポートしていくための施策に
取り組んでまいります。

今後とも、私共の事業活動に、より一層のご支援、
ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年1月1日

一般社団法人 全国寺社観光協会
寺社Now 編集部一同



巻頭特集

02 シリーズ 知って活かす公的制度②

文化財保護と 観光支援における 助成金と補助制度

08 EVENT REPORT

博多の11の寺社が参加し、境内を華やかにライトアップ
第11回「博多ライトアップウォーク 博多千年煌夜」

10 PICK UP

文化財の英語解説について文化庁と観光庁が指南
外国人が正しく理解できる文化財の英語解説のあり方

16 インタビュー

法相宗大本山 薬師寺 管主

村上 太胤

10

TOPICS

建築物の評価が複雑な寺社の損害保険
評価の時間と費用を大幅に軽減する
「伝送鑑定」

14

集う、育む 体験レポート

西念寺・子ども食堂「あんのん子ども食堂」

15

行政・観光レポート

国府町まちづくり協議会が
『日本遺産めぐりツアー』を企画・開催

20

うちのお宝

功山寺 木造地藏菩薩半跏像
田村神社 絵馬 三国志三傑図

22

トレンド Now

国内外の専門書が揃う「旅の図書館」が
南青山に移転リニューアル
嚴島神社で2.5次元ミュージカルを上演「GYAO!」
特設サイトでの配信も実現

23

活性人

チームラボ 代表 猪子 寿之

24

和空 presents 宿坊運営ノート 番外編

静かに歴史を刻む奈良・信貴山
三院の宿坊から学ぶ現代の宿坊のあり方

26

寺社旅研究家 堀内克彦 宿坊研究会レポート10
宿坊とビジネスの融合に必要な『黄金文脈』

27

職人技

愛知 有限会社 伏谷商店

28

野田博明 風まかせ12

錦織圭選手もびっくり、
不滅の法灯奇跡のラリー

30

四季巡り 華景色③

常立寺の蠟梅



文化財保護と観光支援における 助成金と補助制度

補助が受けられる寺社向けの公的な制度をシリーズで紹介していく本特集の第2弾。

今回は「文化財保存事業における助成金と補助金制度」と

「地域資源を活用した観光地魅力創造事業」を取り上げ、

文化庁の文化財保存のための補助制度をはじめ、

観光庁が進める地域の観光資源を保護し、活用するための各種補助事業をご紹介します。

文化財保存事業に おける助成金と 補助金制度

日本の長い歴史のなかで生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民の財産といえる文化財。ひと口に文化財といっても実にさまざまなものがあり、寺社や民家などの建造物、仏像、絵画、書画などの他、芸能や工芸技術のような技、伝統的行事や祭り、あるいは長い歴史を経て今に残る自然景観、歴史的集落、古い町並みなども文化財に含まれる。その中でも建造物や絵画、彫刻、古文書など美術工芸品の重要なものは「重要文化財」、特に価値の高いものは「国宝」として文化庁の指定を受けている。(指定・選定・登録までの流れについては図1を参照)

明治時代から脈々と続く 文化財の保護政策

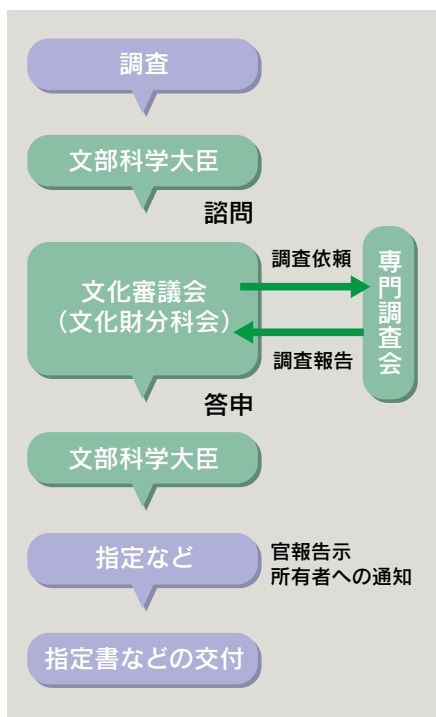
文化財の本格的な保護は明治時代に始まり、社会情勢の変動に影響を受けながらもたゆみなく続けられてきた。1871

(明治4)年に時の太政官が布告した「古器旧物保存法」、1897(明治30)年の「古社寺保存法」、1915(大正8)年の「史蹟名勝天然記念物保存法」、1929(昭和4)年の「国宝保存法」など制度の拡充が随時行われ、1949(昭和24)年の法隆寺金堂壁画の焼損を契機に、日本最初の文化財保護のための統括的法律として制定されたのが、「文化財保護法」。1972(昭和43)年には文化庁が発足し、文化財保護審議会を設置。同保護法は社会の変化に伴って随時改正が行われており、観光面で国内の文化財があらためて注目を集める一方、開発に伴う文化財の危機も言われている。昨今の社会情勢からも、年々文化財の補助制度はその重要性が増してきている。

「保存」「活用」の視点から
さまざまな取り組みを実施

保護法に基づいて分類された文化財は、「保存」と「活用」の視点から、その分野に最も適した方法で守られている。「保存」の視点では、所有者や市町村への適切な管理方法や保存修理方法の指導・補助をはじめ、文化財である土地・建物の公有化に対する市町村への補助や、建物周辺の樹木が倒れて文化財を痛めないようにする環境保全などが具体例として挙げられる。また、文化財を有効的に使

＜図1＞文化財の指定・選定・登録を受けるまでの流れ



＜図2＞当該補助事業者の事業規模指数に応じた補助率の加算について

建造物の修理, 防災事業 美術工芸品の防災事業		美術工芸品の修理事業	
事業規模指数	加算率	事業規模指数	加算率
0.1 以上 0.2 未満	5%	0.01 以上 0.05 未満	5%
0.2 以上 0.3 未満	10%	0.05 以上 0.2 未満	10%
0.3 以上 0.6 未満	15%	0.2 以上 0.5 未満	15%
0.6 以上 1.5 未満	20%	0.5 以上 1.0 未満	20%
1.5 以上 3.5 未満	25%	1.0 以上 2.5 未満	25%
3.5 以上 10.0 未満	30%	2.5 以上 5.0 未満	30%
10.0 以上	35%	5.0 以上	35%

【事業規模指数の計算式】

$$\text{事業規模指数} = \frac{\text{補助対象となる総事業費} / \text{当該補助事業の施工年度数}}{\text{事業実施年度の前々年度以前3会計年度の平均収入額}}$$

国庫補助の対象となる主な事業は、「①修理、②防災・環境保全、③管理費」の大きくは3つに分けられ、①、②に関しては対象経費の50%に加え、当該補助事業者の事業規模指数に応じ、加算率が設定され最大85%まで補助率が設定されているが設定されている

＜図2＞。これは <http://www.bunka.go.jp/> 文化庁文化財部

＜資料提供＞
文化庁文化財部

対象経費の最大85%を補助金として交付

1979（昭和54）年5月、文化庁によって「重要文化財（建造物・美術工芸品）修理、防災事業費国庫補助要項」が制定

された。所有者あるいは管理団体が文化財建造物の管理または修理にあたり、多額の経費を要するためにその負担に堪えられない場合、またその他特別な事情がある場合には、国から補助金が交付されるといふもの。補助金の交付は、所有者・管理団体の申請に基づいて行われる。むろんその手続きは法律の定める手続きに従って行われ、その書類は全て都道府県教育委員会を経由しなければならぬので、まず教育委員会に相談し、その指導に基づき必要書類や資料を整備することになる。

文化財保全の補助以外に税制優遇措置も

収入などの少ない事業者（寺社など）に対してより手厚い補助が出来るようにという配慮が背景にある。③に関しては対象経費の1/2が交付される決まりになっている。

重要文化財には譲渡所得の非課税、譲渡所得の特別控除など、相続税の軽減、地価税・固定資産税・特別土地保有税、都市計画税の非課税など、税制上の優遇措置も細かく設けられている（図3）。保護などのために寄付をする場合は、財務大臣個別指定により寄付金控除（所得税）、全額損金算入（法人税）が認められている。また、地方自治体や財団法人が、独自に助成システムを設定しているケースもある。その他さまざまな事例や制約については、文化庁や地方自治体の各ホームページで細かく紹介されていることが多いので、ぜひ活用してもらいたい。

＜図3＞重要文化財に係る助成措置

事項	内容		
補助	修理	●重要文化財の修理につき多額の経費を要し、所有者又は管理団体がその負担に堪えない場合その他特別な事情がある場合には、国が補助金を交付することができる。	補助対象経費の50～85%
	防災・環境保全	●重要文化財の防災施設整備、環境保全事業について、所有者又は管理団体に対し、国が補助金を交付することができる。	補助対象経費の50～85%
	管理	●重要文化財の維持管理の万全を期するために、所有者又は管理団体が行う事業に対し、地方公共団体がその経費を補助する事業又は地方公共団体が自ら行う事業について、国が補助金を交付することができる。	補助対象経費の1/2
税制優遇	譲渡所得の非課税	●個人が重要文化財として指定された建造物(土地を除く)を国・地方公共団体、独立行政法人国立文化財機構・国立美術館・国立科学博物館に譲渡した場合は非課税となる。	非課税
	譲渡所得の特別控除など	●個人または法人が重要文化財として建物とともに指定された土地を国・地方公共団体、独立行政法人国立文化財機構、国立科学博物館に譲渡した場合に2000万円の特別控除または損金算入が認められる。	2000万円の特別控除(所得税)、2000万円の損金算入(法人税)
	相続税の軽減	●重要文化財として指定されている建造物及びその敷地の相続税について財産評価額を軽減する。	財産評価額の70/100を控除
	地価税の非課税(地価税は平成10年度以降課税停止)	●重要文化財に係る一定の土地などについては、地価税が課されない。	非課税
	固定資産税、特別土地保有税、都市計画税の非課税	●重要文化財として指定された家屋もしくはその敷地については、固定資産税、特別土地保有税、都市計画税が課されない。	非課税
その他	指定寄付金	●個人又は法人が、国指定文化財を所有又は管理する公益法人(宗教法人を含む)が行う国指定文化財の保護のために行う修理・防災施設の設置などの事業に要する費用に充てるための寄付をしようとする場合、財務大臣個別指定により寄付金控除(所得税)・全額損金算入(法人税)が認められる。	全額損金算入(法人税) 寄付金額(所得税)の40%まで—2千円(所得税)

地域資源を活用した 観光地魅力創造事業

ここ数年、インバウンド（訪日外国人旅行者）は増加の二途をたどり、今や観光ビジネスは大きく成長している。しかし、全国的に有名な観光地に集中してしまっているというのが現状だ。インバウンドをはじめ、観光客の目をゴールデンルート（東京、富士山、京都、大阪）以外の地域にも向くようにするためには、やはり単独の観光資源のみでは限界があるといえるだろう。観光による地域活性化・地方創生を本当の意味で図っていくため、また地域の魅力ある観光資源を世界に通用するレベルまで押し上げるためには、点ではなく面で、観光地域としてだけでなくPRできるかが重要になってくる。そのためには、観光事業に関する支援制度、補助制度について深く知り、活用するために地方公共団体や各観光関係者、交通事業者など寺社を含む地域の各機関が総力を結集、一枚岩で事業を推進していく必要がある。

観光庁が支援する 「地域資源を活用した 観光地魅力創造事業」

観光資源の磨き上げに意欲ある地域の取り組みを支援すべく、観光庁が2015（平成27）年度に開始したのが「地域資源を活用した観光地魅力創造事業」だ。2016（平成28）年度は2億9500万円が予算化。2016年4月28日～5月27日まで事業対象地域の公募が行われ、全国から集まった55件の応募の中から、審査のうえで35件を選定（図1）。

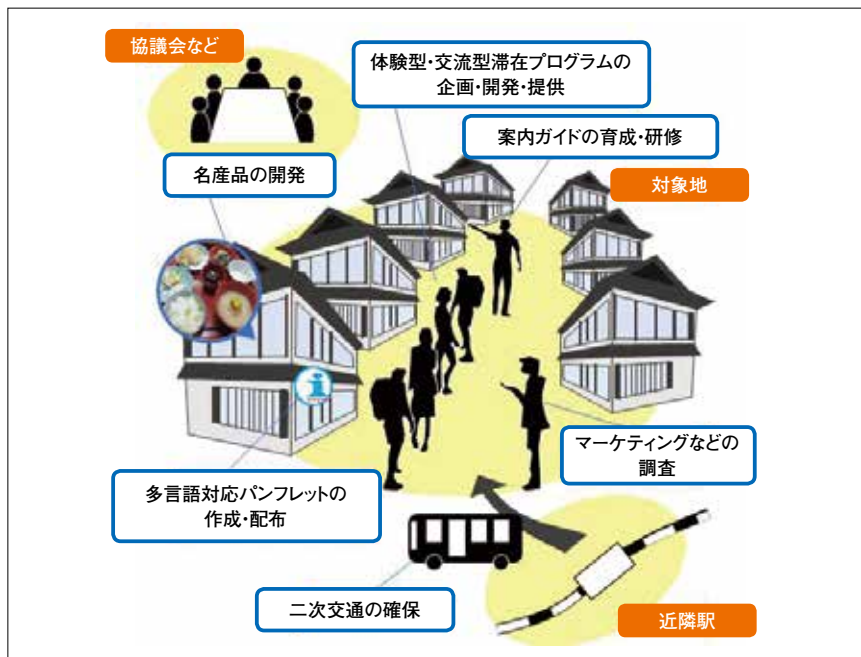
その土地の自然や歴史・文化・食などの資源を活用した滞在コンテンツの充実と強化、受入環境の整備、交通アクセスの円滑化などの取り組みに対して、観光庁と地域が一体となって事業を支援し、各地域の魅力アップに注力している。

「地域資源を活用した観光地魅力創造事業」の公募の要件は、以下の通りである。①市町村及び複数の民間業者で構成する協議会が組織されていること②事業内容が地域資源を活用し、魅力ある観光地づくりを図る取り組みであること。また、この事業のユニークな点として、マーケ

<図1>平成28年 地域資源を活用した観光地魅力創造事業の主な採択地域とそのテーマ・コンセプト（全35件・一部抜粋）

都道府県	主な事業実施地域	地域づくりのテーマ・コンセプト
北海道	木古内町	『180年の時を紡ぐ、今を生きる観光まちづくり』 ～伝統神事で願う新しい人生（たび）のはじまり～
福島県	会津若松市	『サムライ文化と商人文化が息づく魅力ある城下町』 ～東北の城下町を探访する～
群馬県	富岡市	『富岡製糸場を核としたインバウンド向け観光魅力の発信』 ～外国人観光客を誘客し周遊できる地盤づくりの促進～
新潟県	妙高市	『観光地 妙高の復活』～妙高版 DMO による観光地域づくり～
福井県	小浜市	『若狭湾の食と伝統的町並みを生かした小浜市の地域活性化』 ～鯖街道（日本遺産）の起点であった賑わいを体感できる滞在型観光地への創生～
京都府	京都市	世界遺産・二条城の観光コンテンツとしての質向上 ～二条城が牽引する文化財の観光資源としての開花～
奈良県	明日香村	『「日本発祥の地」を体験するためのプログラム改善プロジェクト』 ～日本トップクラスの文化財・歴史的風土の村が一丸となって、滞在型観光地としての魅力強化に向け取り組む～
山口県	防府市	『“幸せます”のまちづくり』～幕末維新から現代へ～
佐賀県	有田町	『400年の歴史が育んだ文化・ひと・食が“うつわ”に広がる 有田旅百貨』 ～観光まちづくりに向けた新たな ARITA の魅力づくり～
長崎県	長崎市	『世界遺産登録候補資源と関連資産を活用した観光地の魅力創造』 ～新たな魅力創造と持続可能な受入態勢の整備～

<図2>観光関係者による取組の事例図解（観光庁より）



支援内容:個別事業の実施に必要な経費の総額の2分の1以内の金額を予算の範囲内で負担する。

ティング調査の実施や、観光地周遊バスを運行するための実証事業に対しても支援を受けられることがあげられる。^図2^。さらに、複数年にわたる取り組みに対しても継続的な支援が受けられる。

若者ならではの新たなアイデアを取り入れた取り組みも

現在、2016（平成28）年度に採択され、この制度を活用した取り組みが進行している。その中から二つの事例を紹介したい。

CASE① 富山県立山町

北陸新幹線の開業効果によつ

て国内外からの個人旅行者が増加している富山県立山町では、立山信仰の安らかな世界をよりいっそう体現できる観光地とするため、伝統文化の体験などを盛り込んだ新たな観光コースを造成。利便性向上を目指し、高齢者を対象に険しい遊歩道を電気自動車を用いて送迎するサービスを実施した。また、アルペンルートの玄関口である立山駅周

辺にMITSUBISHI設備を設置し、外国人を受け入れるための環境を整備。クーポン券付のパンフレットを配布するなど、滞在型コンテンツの充実・強化にも注力している。

この立山町では、「地域資源を活用した観光地創造事業」に申請し、これらの新たな取り組みに対し次の3つの実験・検証への支援が決定した。①来場者の利便性向上…EV自動車による送迎サービス・無料駐車場の有料化による混雑軽減のための実証実験 ②外国人受入環境整備…MITSUBISHI設備を立山駅などに設置するとともに、アクセスを分析 ③滞在型コンテンツの充実・強化…クーポン券付きパンフレットを配布し、回収したクーポンから入手経路などを検証、分析。



立山信仰に関する観光コースの造成として布橋灌頂会の体験を盛り込んだコースが進められている

CASE② 京都府木津川市

京都府木津川市では、同志社大生と地元中学生が取り組んできた観光ツアーのブラッシュアップに着手。地域の観光資源である当尾石仏群・茶畑・（岩船寺・浄瑠璃寺などの）国宝・文化財を活かし、多彩な体験や交流のできるコンテンツを盛り込み、外国人観光客を想定したプランにすることで持続可能なインバウンド事業の実現に挑んでいる。これは若者ならではのアイデアを取り入れているのが大きな特徴であり、現在はマーケティング調査（モニターツアー実施時のアンケート調査・階層クラスター分析・SNS パフォーマンスモデリング）やコースの企画・開発、ドローンを利用したプロモーション



京都府木津川市での外国人観光客を想定したプランの観光ツアーの様子。
上:浄瑠璃寺三重塔(国宝)、右下:岩船寺 十三重石塔(重要文化財建造物)、左下:当尾石仏の道 わらい仏(京都府指定有形文化財)

ビデオの作成などが行われている。コミュニティバスによる1日周遊モデルコースや、多言語対応のパンフレット配布なども検討されている。今年度、これらの取り組みに対し支援が決定した。

このように本制度で採択された地域に対しては、その土地の自然や歴史・文化、食などの資源を活用した、観光地の魅力を高めるための取組みを支援。滞在コンテンツの充実や強化、地元での消費拡大に関する事業などの実施に必要な経費について、総額の2分の1以内の金額を予算の範囲内で観光庁が負担してくれるため、観光庁と地域が一体となり事業を支援し地域の魅力を高めていく体制が整う。

今後寺社においても、地域社会と連携した魅力あふれる観光地域づくりの取り組みへの、積極的な参加がより一層求められるだろう。

**インバウンド対応支援
などさまざまな課題に
向けた補助制度**

ここまで紹介した「地域資源を活用した観光地魅力創造事業」以外にも、観光庁による補助事業はさまざまな形で行われている。その一つが「訪日外国人旅行者受入環境整備緊急対策事業」だ。外国人旅行者がストレスなく快適に観光を満喫できるように、「宿泊施設インバウンド対応支援事業」、「交通サービスインバウンド対応支援事業」、「地方での消費拡大に向けたインバウンド対応支援事業」を対象として補助金を交付し、滞在時の快適性・観光地の魅力向上や、観光地までの移動円滑化などを図る狙いがある。

その他にも、複数の広域観光ルートを認定し、テーマ性・ストーリー性を持った一連の魅力ある観光地を交通アクセスも含めてネットワーク化する「広域観光周遊ルート形成促進事業」、国内外から選好される国際競争力の高い魅力ある観光地域づくりを促進するため、地域の取り組み段階に応じて地域独自の「ブランド」の確立を通じた観光地域の創出を支援する「観光地域ブランド確立支援事業」などがある。また、選定されたネットワーク組織などが実施する共同プロモーションやマーケティング、周遊プランや共通マニュアルの作成、共同WEBサイトの開設

などに必要な経費について観光庁が支援し、効果的な観光振興を推進する「テーマ別観光による地方誘客事業」にも注目したい。

**東京五輪に向けた
インバウンド対策の必要性**

2016(平成28)年3月30日に開催された「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」(議長・安倍総理大臣)において策定された新たな観光ビジョンとして、政府は「2020(平成32)年の訪日外国人旅行者数4000万人」を目標に掲げている。観光促進やインバウンドに関連した施策は今後さらに追加されることが予想される。いずれも寺社に直接的に関わるものではなく、自治体などからの申請が必要な制度だが、このような支援があることを知った上で、地域全体で文化財の保護や地域振興に向けた新たな取り組みを考えるヒントになればと思う。

資料提供
観光庁 観光地域振興部
観光資源課
http://www.mlit.go.jp/kankochou/news05_000216.html

<http://www.lighting-daiko.co.jp>

有馬温泉 ねぎや陵楓閣

関西の奥座敷、有馬温泉の中心地にある「ねぎや陵楓閣」は、その名の通り、多くのモミジに囲まれた希少な旅館。紅葉時期には、幻想的で艶やかな景色に包まれる。今回の照明計画は、そのモミジをいっそう美しく見せるため40台のスポットライトでライトアップし、建物が真っ赤なモミジの雲海に浮かんで見えるよう照明設計を行っています。

DAIKO 公式ホームページ

DAIKO で検索！



DAIKO は LED 照明の製造から販売、照明計画まで行う照明業界のリーディングカンパニーです。

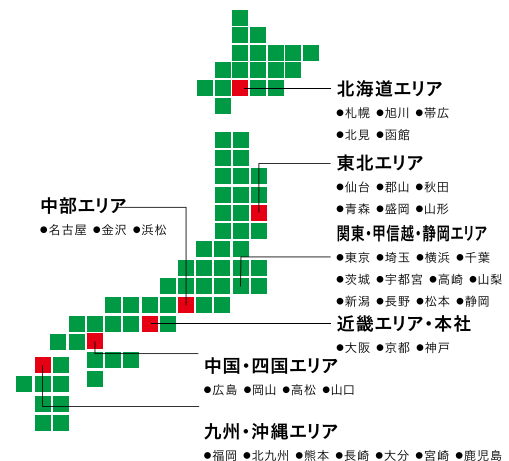
光の効果、明るさ、照明計画、予算など様々なご要望に応じた照明器具と照明プランをご提案！



DAIKO は「博多ライトアップウォーク 2016・善導寺&龍宮寺」に参加しています。
詳しくは弊社ホームページ「TACTレポート NO.8」[「http://www2.lighting-daiko.co.jp/tact/report/」](http://www2.lighting-daiko.co.jp/tact/report/) をご覧下さい。

全国の営業拠点

お客様のニーズにスピーディーに対応できるように、全国各地に約70数カ所ある強力ネットワークで品質の高い「あかり」をお届けいたします。



<事業領域>照明器具の製造販売 / 商空間・住空間の「あかり環境事業」を通じてお客様によりよいあかり環境を提供します。

DAIKO

創業 90 年の歴史と信頼と実績

照明に関するご相談・お問い合わせ
大光電機株式会社 商環境開発部

〒130-0026 東京都墨田区両国 4-31-17 Tel 03-5600-7796 Fax 03-5600-7797



EVENT REPORT

博多の11の寺社が参加し、境内を華やかにライトアップ

第11回「博多ライトアップウォーク 博多千年煌夜」



左上:東長寺 右上:龍宮寺 左下:妙楽寺 右下:承天寺

歴史文化あふれる博多の寺社やまちなみをライトアップし、歴史的な景観により親しめることで、今や博多の秋を代表するイベントとして定着した「博多ライトアップウォーク」。第11回目となる本イベントが昨秋（11月23日～27日）に開催された。はじめは2006（平成18）年に福岡市都市景観賞20周年記念事業として「御供所ライトアップウォーク」として開催され、2009（平成21）年に新たに櫛田神社を会場に加え「御供所・冷泉ライトアップウォーク」に名称を変更。2011（平成23）年より「博多ライトアップウォーク 博多千年煌夜」と題し、昨年は11の寺社を会場にして事業規模を拡大し、延べ11万人を動員した。このイベントには、照明デザイナーの松下美紀さん総合監修のもと、それぞれの寺社の照明協力には、大光電機、パナソニック、カラーキネティクス、三菱電機照明など計18社の大手企業が名を連ねている。

当初寺社の参加は3箇所 今は11の寺社が参加

このイベントの事務局を運営する博多区役所 総務部 企画振興課の紙本直人さんは、11の寺

社が会場となった背景について、「中世から栄えた博多は歴史文化資源に恵まれており、その中でも寺社をライトアップすることでより多くの方に博多の魅力を知っていただくことができると考えました。寺社の参加は当初は3会場から始めましたが、イベントの認知度が上がるにつれ協力していただく寺社も増えていきました。博多では拝観料を徴収している寺社はないのですが、このイベントは集客だけではなく地域の活性化を目的にしているため多くの寺社からご協力をいただいています。寺社からも檀家以外の方に寺を知ってもらうことができたとの声をいただき、好意的に受け止めていただいていると思います」と語った。

そして今回、会場となった寺社の中から、龍宮寺と妙楽寺それぞれのご住職に本イベント参加のきっかけ、地域全体の取り組みについて伺った。

初めてのイベント参加で「開かれた寺」を目指す龍宮寺

JR博多駅からほど近く「人魚の骨がある寺」として人々の信仰と関心を集めてきた龍宮寺。創建は鎌倉時代に遡る。今回、初めて博多千年煌夜に参加する龍宮寺は、電話予約なしで

同寺に伝わる人魚の骨を見ることのできるということもあって、初日から多くの人々が列をなしたそうだ。「寺は開かれた存在であるべきだと思っています。地域の活性化のためにも今回初めてイベントに参加させてもらいました」と語る岡村龍生住職。大光電機が手がけた照明は、ほのかな青や白の灯りが点在することで、海の中にいるような幻想的な雰囲気を出している。本イベントを通して寺の敷居の高さを払しょくし、「来年のイベントの際には秘仏として公開していない荒神様のお堂を開放し、皆さんにお参りしていただきたいですね」と、岡村住職は次回への想いを語ってくれた。



浄土宗 冷泉山 龍宮寺



冷泉山 龍宮寺
岡村龍生住職

昔から変わらない佇まいで
魅了する妙楽寺

1316（正和5）年に月堂宗規そうぎが開基した妙楽寺。かつては遣明使一行が宿泊するなど、対外貿易の大事な拠点となり、博多商人ゆかりのお寺として有名だ。同寺が、本イベントに参加し始めたのは約10年前。檀家さんだけではなく、一般の人たちにも広く寺を開放する機会をつくりたいと参加を決めたという。「昔から変わらない風景の中に美しさを感じてほしい」と語る渡辺桂堂住職わたなべけいどう。戦国動乱の火で焼けた石や瓦を粘土で塗り込めた古い土壁「博多べい」を境内



石城山 妙楽寺
渡辺桂堂住職



臨済宗大徳寺派 石城山 妙楽寺

に残し、壁や門を照らすことで、境内の美しい木々をシルエットとして浮かび上がらせるといふ工夫もされている。長年変わらない美しさを、新たな視点から伝えていく。

博多を代表する大イベントになることを目指して

本イベントの今後の展望についてイベント事務局の紙本さんは「今年で11回目の開催となり、秋の博多を代表するイベントとして、多くの方にご来場いただいています。夜間開催のイベントのため、寺社のキャパシティの関係上、来場者数は限られ、単純にイベント規模を拡大することは難しいのですが、今後も寺社のご協力をいただきながら、歴史と文化があふれる博多の魅力を発信できるような企画を、考えていきたいです」と熱く語ってくれた。本イベントのように宗派を超えて多くの寺社が参加することで来場者の回遊性が高まり、相乗効果と地域の活性化が期待できる。



イベント事務局を運営する
紙本直人さん

第11回 博多ライトアップウォーク 2016 博多千年煌夜 ライトアップ会場



【呉服町地区】 承天寺



【呉服町地区】 東長寺



【呉服町地区】 妙楽寺



【呉服町地区】 円覚寺



【呉服町地区】 妙典寺



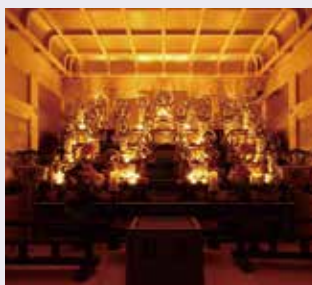
【呉服町地区】 正定寺



【呉服町地区】 本岳寺



【呉服町地区】 善導寺



【呉服町地区】 海元寺



【冷泉地区】 龍宮寺



【冷泉地区】 櫛田神社

公式サイト
<http://hakata-light.jp/>

建築物の評価が複雑な寺社の損害保険 評価の時間と費用を大幅に軽減する「伝送鑑定」

寺社建築物の多くは、規模が大きい上に建築から長い歳月を経た木造であるため、一般の建築物と比較すると、火災発生の危険度はかなり高いといえる。したがって万が一の事態にも、再建に必要な補償を得られるよう、火災保険の加入は必要不可欠だろう。しかし、寺社の火災保険契約は、物件評価に高度な専門知識が求められ、適切な評価を得るための調査日数と費用が多大なために、寺社側の負担が大きいつい問題点があった。そんな負担を軽減してくれるのが、東京海上日動火災保険が提案する『伝送鑑定』だ。今回は伝送鑑定の仕組みとそのメリット、実際に伝送鑑定を利用して、火災保険に加入した大阪府・生駒山 隆昌寺の事例を紹介する。

新たな評価の仕組みを構築した「伝送鑑定」

まず伝送鑑定とは、同社が寺社向けに行なっている物件評価サー

ビスであり、その大きな魅力は鑑定終了までのスピーディーさにある。例えば火災保険に加入する際には物件の適切な評価額を算出することが前提だが、寺社の場合は寺社の鑑定経験が豊富で専門知識を有する鑑定士による、数日間、場合によっては数週間に及ぶ現地での立会い鑑定が必要となる。さらには鑑定費用に加えてその間の滞在費用なども寺社側の負担となる。しかし同社が寺社物件評価で多くの実績を誇る鑑定事務所と連携したことで、鑑定に関して新たなシステムを構築することができた。その仕組みこそが伝送鑑定である。

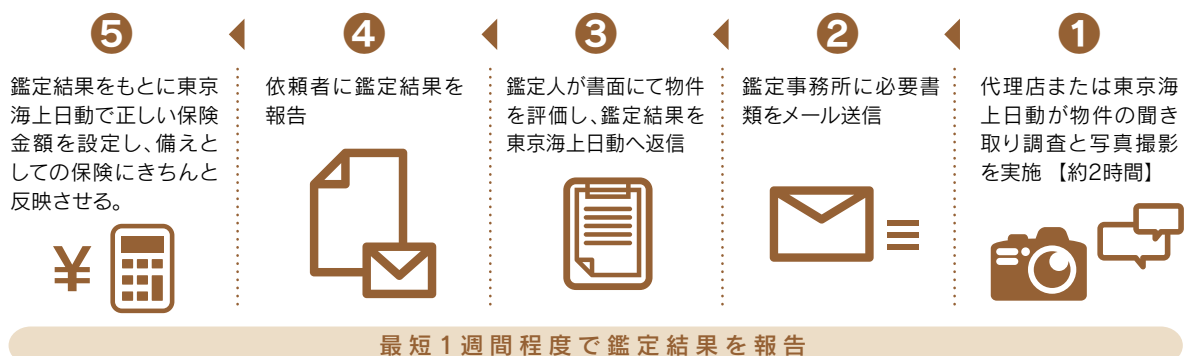
伝送鑑定の流れはその名の通り最小限の聞き取り調査内容と物件の写真撮影を「伝送」し、それを元に「鑑定」を行うというもの。この調査や撮影は同社の社員および代理店が担当し、そこで作成した書類をベースに鑑定人が評価する。そのため調査時間は約2時間と非常に短い。調査実施後、最短

1週間ほどで鑑定結果が届けられる。その伝送鑑定結果を元に火災保険の契約という流れになるが、おおよそ1ヶ月あれば鑑定から契約までが終わる。いつ起きるかわからない自然災害や火災だからこそ、いち早く備えておきたいもの。その思いに応えてくれるスピード感で、一足早く安心を得られるのである。

寺と参拝者の拠り所を守るために伝送鑑定を依頼

大阪府四条畷市にある生駒山 隆昌寺は、昨年春に伝送鑑定を利用した。岩本隆道住職は、伝送鑑定を知った経緯について「以前から地震はたびたび起きていました。近頃は頻発していると感じていました。そんな折、秘書が取引していた代理店を通じて鑑定が容易な『伝送鑑定』を知り、今まで加入していなかった損害保険を検討するようになりました」と語る。また、岩本住職は3年前に同寺を継いで、寺をしっかり守っていき

伝送鑑定の流れ



※資料提供：東京海上日動火災保険株式会社

PR



隆昌寺 本堂

いどの思いを強くしていたことも保険を検討するきっかけとなったという。「寺ではろうそくなどの火気を扱うため日頃から気を付けているものの、24時間人がいるわけではありません。また、寺の性質上、門を閉ざして人が入れないようにすることも容易ではありません。もしもの事態というのは突然に起こるものですから」。そう話してくれた岩本住職だが、やはり保険を検討する際は物件鑑定にどの程度時間と費用が掛かるのかが心配だったそう。しかし伝送鑑定の場合、鑑定作業の協力でどれだけの時間を費やすのかという懸念が不要なため、僧侶として日々のお勤めに支障をきたさなかつ



生駒山 隆昌寺 住職 岩本隆道さん

たのも大きい。また、窓口の保険代理店の担当者から、事前に鑑定の流れや仕組み、補償内容なども細部まで丁寧に説明があったことも、伝送鑑定を行う決め手となり、安心して任せることができたという。「やはり何事も信頼関係が大切ですから、今回の担当の方の丁寧な説明でその関係が結べたのが良かったですね。それに他の物件鑑定と比較し、物件鑑定に掛かる費用の負担が少ない点も助かりました」また、同寺は霊園を併設しているためご先祖供養に来られる人が中心で、火災などが起きてしまうと参拝者の心の拠り所を失ってしまうことになりかねない。「もし保険未加入のまま焼失した場合はお布施によって再建することになるでしょうから、これまた御信心いただいている方にご負担を掛けてしまう。このような事態を回避するために、伝送鑑定という

のは寺だけでなく参拝者をも守るものだと思っています」



鑑定日より3日後に届いた鑑定書

迅速な対応と納得できる 説明内容に満足

岩本住職は、伝送鑑定を勧める点のひとつに「信頼関係を結んだ上で安心して依頼できたことと、鑑定評価が出るまでのスムーズさ」を挙げており、その鑑定内容にも納得いく説明がなされたそう。これは建築年数やその歴史的価値など、専門家でなければ鑑定が難しいとされる寺社の鑑定を、その分野において定評のある鑑定事務所が請け負うことで可能となったシステムだ。一般的な物件鑑定と比較して非常にスピーディーで、同寺の場合、鑑定を依頼した3日後に鑑定結果が届い

たということからもその迅速さがかがえる。なお、伝送鑑定を経た後の火災保険でカバーできるのは火災による建築物の焼失。隆昌寺では本堂及びその周辺の建築物に対して保険を適用させている。寺社の保険の加入時にその掛け金が多大になるケースが多いことから躊躇する寺社も少なくはないが、「災害が起きてからでは遅い」という岩本住職の言葉が非常に印象的だった。

【取材協力】

生駒山 隆昌寺

〒575-0014

大阪府四条畷市上田原1-37-2

TEL:072-889-0033

【お問い合わせ】

東京海上日動火災保険

大阪北支店 専業営業チーム

大阪市中央区高麗橋3-5-12

淀屋橋東京海上日動ビルディング7階

TEL:06-6203-0632

受付時間: 9時~17時(休:土日祝)

<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp>

文化財の英語解説について文化庁と観光庁が指南

外国人が正しく理解できる文化財の英語解説のあり方

文化庁による2014（平成

26）年の調査で、外国人旅行者の訪問先決定の条件として、1

位の「美しい景色」に次いで「異

文化体験」「豊かな自然環境」

「歴史がある」が続き、外国人

は異文化や日本の歴史・伝統文

化に高い関心を示していること

が分かった。しかし国内の文化

財には外国語の解説がないもの

が多く、あつたとしても日本語

解説の直訳（ローマ字表記）で、

読んでも理解しにくいと外国人

観光客からは不満の声が上がっ

ていた。こうした現状を踏まえ、

また2020（平成32）年の

東京オリンピック・パラリンピッ

クを見据えたうえで、文化庁と観

光庁は「文化財の英語解説のあり

り方に関する有識者会議」を設

置し、訪日外国人旅行者に文化

財の魅力伝えるための視点を

整理し、報告書にをまとめた。

「文化財の英語解説のあり方について」に参考サイト

<http://www.rtlit.go.jp/common/00142189.pdf>

文化財の魅力伝えるために必要な4つの視点

外国人旅行者が日本の文化財を訪れた際、分かりやすい解説がなければその文化財の由縁や歴史、本当の価値を理解することができない。日本の文化財を「見て感動し、その価値を理解していただく」ことを主眼に、文化財の英語解説に必要な4つの視点を示した。

【視点1】日本語の解説を直訳せず、基本的な用語の解説を補足するなど、文化財を理解する上で前提となる情報を解説に盛り込む。

【視点2】外国人の目線での文化財のどこに興味・関心を持つかを把握し、メリハリの効いた解説内容とする。

【視点3】案内板やパンフレットなどの解説媒体に応じ適切に情報を書き分けるとともに、デザインの見やすさや景観との兼ね合いも考慮する。

【視点4】分かりやすい解説のためには、英文執筆・翻訳を委ねることができる優れた人材の確保が重要。

これら四つの視点を整理する

上でチェックポイントも設け、たとえば「暖簾」は「NOREN」とするのでなく「Traditional shop curtain」のように意識する。また、「神社」や「仏教」などの言葉は全国的に統一感がある解説が有効である、などの具体的な事例も提案している。

文化財の英語解説の改善・充実のための取り組み事例

こういった文化財の分かりやすい解説や多言語化の整備を広く普及させるため、具体的な取り組み事例として2カ所のモデルケースを紹介する。

一つ目の、和歌山県田辺市内五つの観光協会で構成される「田辺市熊野ツーリズムビューロー」では、田辺市で3年間過ごした



材質や色の統一感を出し、上に日本語、下に英文表記に統一

「熊野本宮大社」の英語表記

- ・ Kumano Great Shrine
 - ・ Hongu Shrine
 - ・ Hongu Grand Shrine
 - ・ Hongu Taisha Shrine
 - ・ Kumano Great Taisha
 - ・ Kumano Hongu Taisha
- など19通り

Kumano Hongu Taisha (Shrine)に統一



和歌山県田辺市の国際観光推進員に任命されたブラッド・トウル氏

当宮は康平6年(1063)源頼義が奥州を平定して鎌倉に帰り、源氏の氏神として出陣に際してご加護を祈願した京都の石清水八幡宮を由比ヶ浜辺にお祀りしたのが始まりです。

Tsurugaoka Hachimangu was established by Minamoto Yoriyoshi (源 頼義, 988-1075) in 1063. He built a power base for the Minamoto warrior clan in the east of Japan after the suppression of a rebellion started by clans in the North East of Japan in 1051. He returned to Kamakura, and built a small shrine for the Hachiman kami (the Japanese word for Shinto deities) near the coast to give thanks for success in suppressing the rebellion. The Hachiman kami was regarded as the protector kami of the warrior class.

は言換え

は補足説明

補足説明の部分の大意は次のようになる

(1) 神道の神をしめす日本語 (2) 八幡様は武士階級の守護神とみなされていた
 鶴岡八幡宮ホームページ <https://www.hachimangu.or.jp/> より引用



鶴岡八幡宮の英語版のパンフレットでは、はじめに全体の歴史等を紹介し、個別の物件については、拝観者がたどるルートに沿って解説を付している

ブラッド・トウル氏を国際観光推進員として受け入れ、看板のローマ字表記の仕方やデザインの一、展示表記の見直しを実施。19通りのローマ字表記があった熊野本宮大社を「Kumano Hongu Taisha (Shrine)」に統一し、日本人でさえ理解が難しい解説文を外国人目線の分かりやすい解説に変更した。

次に神奈川県鎌倉市の鶴岡八幡宮では、鶴岡八幡宮教学研究所に国際課を設置し、ホームページやパンフレットの英訳に取り組んでいる。英語版のパンフレットは訪日外国人目線の構成で作成し、日本語版にはない補足情報を追加するほか、外国人観光客が巡る順路に沿って物件の解説を簡潔に分かりやすく作成するなど、媒体

による使い分けを実施した。
国及び地方公共団体における推進体制とは

日本の文化財は大半を個人または地方公共団体が所有・管理する。そのため「英語解説の改善・充実」の取り組みを全国に普及するには、観光部局と文化

財保護部局などの行政機関が連携して文化財の魅力発信を強化するとともに、文化財の所有・管理者が自発的に「英語解説の改善・充実」に取り組んでいく必要がある。国及び地方公共団体では「地域資源を活用した観光地魅力創造事業(観光庁)」「文化財総合活用戦略プランの強化(文化庁)」といった支援事業を
 実施しているのでそれらの助成金を有効活用し、旅行者のニーズに合わせた文化財の解説作成や人材育成など、それぞれの寺社の特性に合わせた取り組みに期待したい。
 資料提供
 観光庁 観光地域振興部 観光資源課
<http://www.mlit.go.jp/kankochou/>

「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」設置に至るまでの経緯について

今回紹介した「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」が設置されたきっかけについて、観光庁観光地域振興部 観光資源課長 蔵持京治さんは「二条城は、江戸幕府第十五代將軍徳川慶喜が大政奉還を行った場所として歴史の教科書にも載っています。日本の近代の礎のきっかけとなったことが、我々日本人が二条城に行ってもそれが分からない。二条城は世界遺産として人気のスポーツのつなごに、外国人の方々も『なんだろうこれは？キャッスル？』と素通りしてしまうわけです。トリップアドバイザーの口コミでも『何だかよくわからなかった』というコメントが多く見られます。日本の歴史上重要なスポットであるにもかかわらず、これではもったいな過ぎるということで取り組み始めました」と話す。文化財の日本語解説をただ直訳するだけでは外国人旅行者に魅力が伝わらないという意見も以前から多く寄せられていた。「例えば『織田信長が建立した○○○』という解説があったとします。我々は日本史で勉強したので、織田信長は知っていますが、外国人の方は彼を知りません。まず織田信長はいつの時代に何をしたかの説明が必要になるんです。このようなギャップ埋めるためにプロの目でじっくり検討していきたくて、蔵持さんは語ってくれた。」

西念寺・子ども食堂『あんのん子ども食堂』

大勢と一緒に食事をする『子ども食堂』が 世代を超えて、地域とのつながりを生む



(右) 第1回『あんのん子ども食堂』の参加者と婦人会など運営協力のみなさん
(左) 高橋住職と坊守の真由実さん
(左下) 『あんのん子ども食堂』が開催される西念寺の大広間



きつかけは子どもの『孤食』と『フードバンク』の概念

大分県別府市の住宅街にある西念寺。1501(明応10)年の開基以来、500年以上にも渡って地域に根差してきた同寺で、大分県で初となる『子ども食堂』の運営が始まった。きつかけは、住職の高橋護さんのある想いから。「私たちが小さい頃は、夕食は大勢で食べるのが当たり前。でも最近では核家族や共働き家庭が増え、子どもが一人で夕食を食べている。この『孤食』の問題がずっと気になっていました」それに加えて、企業から廃棄される品質に問題がない食糧を、必要な場で循環させる『フードバンク』の概念が重なったという。そこで坊守の真由実さんに相談したところ、「子ども食堂」をやってみたらという提案があった。同じ頃、テレビで子ども食堂の存在を知った真由実さんも、食の現状にショックを受けていたという。それからの展開は早かった。寺の仏教婦人会からは賛同の声が挙がり、4ヶ月後の2016(平成28)年4月には『あんのん子ども食堂』がスタートした。ちなみに『あんのん』とは、「世のなか安穏なれ」という親鸞聖人の言葉に由来している。

子ども食堂を通じて 幅広い年齢層とつながる

毎月第4月曜日の18時から開催さ

れる子ども食堂では、寺の大広間に約30名が集う。子どもとその保護者が基本だが、各家庭の事情は関係なく、希望者を受け入れているという。一人200円の参加料をもらい、カレーライスや煮物などの家庭料理を振る舞う。正直、参加料だけでまかなうのは厳しいが、住職や真由実さんの援助をはじめ、ボランティアによる協力や個人・団体の支援を受けながら運営している。「子どもは皆と一緒だと嫌いな食べ物でも食べるんですよ。食堂が楽しみで、塾が終わって走ってやってくる子もいます。保護者も婦人会のメンバーも、子ども同様に大勢と一緒に食べるのが嬉しいようです」と高橋住職。以前は年配の門徒さんが多く集う寺院であったが、子ども食堂を通じて幅広い年齢層の人々とのつながりができたという。最後に高橋住職は「何より運営している私たちが楽しんでいきます。今後も各地で子ども食堂が増えていけばいいですね」と語ってくれた。

- 開催概要・毎月1回夜に地域の子どもとその保護者を対象に子ども食堂を開催
- 開催日・毎月第4月曜日
- 参加費・200円
- 開催場所・浄土真宗本願寺派 紫雲山 西念寺
- 〒8740011
- 大分県別府市大字内電33
- TEL0977660833

行政・観光リポート

行政・観光のトレンド情報をリポート

国府町まちづくり協議会が『日本遺産めぐりツアー』を企画・開催

2016（平成28）年4月、岐阜県高山市の申請した『飛騨匠の技・こころ 一木とともに、今に引き継ぐ1300年—』が日本遺産に認定された。同市内には中世の社寺建築群や近世・近代の大工一門の作品群、伝統工芸などが至る所に現存しており、卓越した職人の技と心意気を今に伝える貴重なスポットとなっている。

文化庁もツアー内容検討に協力

なかでも、この日本遺産を構成する「国府盆地の中世社寺建築群」は、近世以前の建築様式の見られる、貴重なストーリーとなっている。これを受けて、国府町まちづくり協議会では昨年10月16日に『国府町日本遺産めぐりツアー』を開催。同協議会で会長を務める橋戸須美子さんは、開催に至った経緯について「実は昨年にも国府町内のお寺や神社を巡るツアーを行い、予想以上に好評でした。2回目の開催を検討していた矢先に、本当にタイミング良く日本遺産の認定が重なりました。今回のツアーの内容を詰める段階では、文化庁のコーディネーターの方にもアドバイスしていただき、非常に心強かったです」と語る。

ツアー参加者52名のうち、半数以上が国府町外からの参加だったという。「中にははるばる、新潟から駆けつけてくださった参加者の方もいました」と橋戸さん。

ツアーでは荒城神社、安国寺、熊野神社、阿多由太神社を巡り、普段は見られない本殿や国宝を前にして感嘆の声を挙げる参加者も多かったという。橋戸さんはこう続ける。「元国府町教育長で地元の歴史に詳しい酒井松彦さん、安国寺の副住職であり、国府史学会の会長も務めておられる堀祥岳さんのお二人がガイドを担当してくださいました。分かりやすく内容の濃い説明で、熱心に聞いておられる皆さんの姿も印象的でしたね」

日本遺産認定をきっかけに地元の素晴らしさを再発見

午前8時に始まったツアーは、正午前に無事終了。「大満足の内容だった!」「次のツアーもぜひ企画してほしい!」など参加者の反応も上々だった様子。「国府町内から参加された方々からも、『地元の素晴らしさを再認識した』と言っていただけましたし、おかげさまで非常に有意義なツアーにすることができました。これをきっかけに、国府町の皆さんに地元の魅力をもっと知っていただけるよう、また、町外の方々にも足を運んでいただけるよう、今後もさまざまなイベントを企画したいと思っています」と橋戸さん。同協議会の今後の活動にも注目したい。



国指定重要文化財の荒城神社本殿



解説をする安国寺の副住職・堀祥岳さんとツアー参加者のみなさん

村上太胤

インタビュー

法相宗大本山 薬師寺 管主かんす

プロフィール

法相宗大本山 薬師寺 管主

むらかみ たいいん
村上 太胤

1947(昭和22)年岐阜県に生まれ、9歳の時に薬師寺に入山。橋本凝胤(はしもとぎょういん)元管主を師に、幼少より修行に励む。龍谷大学文学部仏教学科を卒業し、現在は母校の校友会会長も務め、学生はもとより若い世代への仏教教育にも熱心。『薬師寺まほろば塾』の塾長としての活躍はもちろん、平城遷都1300年の際にはイギリスの大英博物館などで公演を行うなど、布教に努めている。

50年に渡り伽藍復興を目指す薬師寺

まほろば塾などの行事を通じて仏心の種を蒔く

世界遺産に指定されているほか、数多くの国宝を有する奈良県屈指の古刹、法相宗大本山薬師寺。昨年8月、薬師寺では山田法胤管主（現長老）から村上太胤管主へとその任が引き継がれ、大きな転換期を迎えた。

故・高田好胤管主をはじめ、歴代管主によって伽藍の復興に取り組んで参りました。今年中には最後の食堂が完成します。

講堂や食堂は奈良のお寺の特徴ともいえませんが、食堂は食事をする場所ということだけではなく、勉強をする場所でもあります。ここでお坊さん同志がディスカッションして、研修する場所として使っていただきたい。奈良の古寺は、お墓もありませんし、檀家も持たないのでお葬式も行いません。（南都六宗について図1参照）だからこそ、場を提供して、いろんな人に集まっていたら、仏教の教えを勉強してもらうことが私共の使命だと思っています。昨年、いくつかの奈良の大きなお寺で管長が変わられたこともあり、奈良全体で力を合わせて行かねばと思っています。

が、昨今、豊かになればなるほど心の絆が薄れていつているような気がします。お仏壇のある家や三世代で暮らす家も少なくなり、仏教に触れる機会がない。そういった面からも、私共が場を提供することで仏教を学ぶきっかけになればと思います。定期的に行っているお写経会をはじめ、私が塾長を務めさせていただいている「薬師寺まほろば塾」もそういった取り組みのひとつです。

先人が整えてくれた環境に

“魂”を吹き込むことが

命題

村上管主 薬師寺は七堂伽藍といて七つの大きなお堂によって構成されております。しかし、過去の歴史において東塔以外はすべて焼失してしまい、50年前から

編集部 新管主にご就任され、これからの抱負をお聞かせください。

編集部 奈良の寺院の魅力を多くの人に伝えて行くためにどのような取り組みが必要なのかをお考えをお聞かせください。

村上管主 奈良に限らずです

美しい心と仏教の精神を

若い世代に伝える第一歩

編集部 外国人旅行者や修学旅行生など、観光という感覚で奈良の寺院を訪れる人も多いかと思います。そういった若い世代にこそ仏教の心を伝えるという努力を地道になさっているそうですね。

村上管主 努力というのはおこがましいですが、若い僧侶が中心となり、学生さんに手を合わせる

村上太胤新管主の就任を披露する晋山奉告法要

昨年11月20日、法相宗大本山薬師寺にて村上太胤新管主の晋山奉告法要が執り行われた。約3千人の参列者を前に村上新管主は、50年前の故・高田管主の晋山式を回想しつつ、現在進めている食堂の落慶と4年後の国宝東塔解体大修理を無事成就し、「白鳳伽藍復興」を二山一丸となって目指すことを誓った。親交のあるテノール歌手の秋川雅史氏も登場し、歌で祝った。

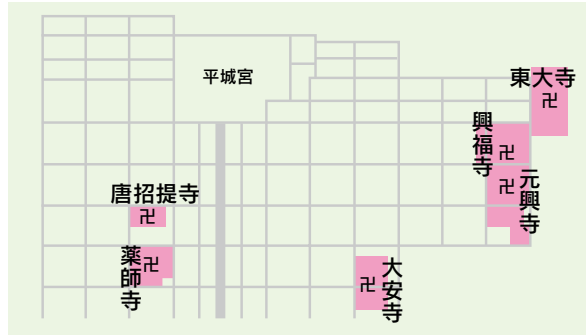


南都六宗とその中心寺院

奈良時代に成立した日本仏教の源流ともいえる南都六宗。宗派というより仏教教学を研究する学派という色合いが強かった。

法相宗	俱舎宗	三論宗
成実宗	華嚴宗	律宗

現在、法相宗（本山は薬師寺と興福寺）、律宗（本山は唐招提寺）、華嚴宗（本山は東大寺）の三宗が受け継がれている。



国宝・東塔

観光はあくまでも手段であり、その手段を優先しがちですが、私共は「仏心の種を蒔く」という、つまりはご縁を作っていくことを大事にしたいのです。そのために研修や講演の開催などにも力を入れ、単に「来た、見た、だけではない寺院の魅力に触れてほしいです。団体バスで来られ

編集部 こういった姿勢は奈良の地域全体においても同様なものでしょうか？

編集部 今後の奈良の寺院のあり方、展望についてご意見をお聞

意味や慈しみの心の話をするこ
とで、最初は観光感覚だった人が
寺を後にする際には手を合わせ
て帰るようになってもらえれば
と。このような活動は仏教の教
えを知ってもらおう第二歩であり、
それがきっかけとなって再びお寺
を訪れてくれたら嬉しいですね。
そのためにも私は薬師寺をもつ
と開放し、日本文化の発祥の地
である奈良の魅力を体感しても
らう。そのために行動し続けるこ
とが使命であると考えています。

村上管主 寺院の伝統行事を
通じて地域と触れ合うことで、
歴史ある奈良の魅力をより知っ
てもらいたいと願っています。行
事の際には地域の協力と理解が
とても重要ですから、その行事に
参加していただくことで寺と地
域が共存し、共により良い場所
にしていければと思います。古都
である奈良の魅力を訪れる人と
住む人の両方が知ること、形
だけでなく中身の伴った伝統行
事を次世代へ繋いでいけるのだ
と思います。

村上管主 私はこれからの奈良
の寺院は、脱・観光を目指すべき
だと思っております。というのも、観
光地にある寺院の宿命かもしれ
ませんが、やはり観光を追求する
とどうしても何人来たか、という
数字ばかりを追うことになる。
しかし重要なのは参拝者数では
なく、奈良や寺院の真の魅力を
知ってもらうために心を込めた
ことがきちんとできるかどうか
であり、ひいては仏教の教えを広
めることだと思っております。

「薬師寺まほろば塾」の活動について

「まほろば」とは、優れた美しいところを指す言葉。日本人の「美しいところ」と「豊かな文化」をすべての人に広く伝えたいと、全国各地で開催する「まほろば塾」は、宗教やジャンルを超えた講師陣による「まほろば運動」を進めている。

古来、日本は恵まれた自然と、自然がもたらす試練を乗り越えてきた歴史を持つ国であり、その風土から自然への「畏敬の念」と感謝の心が生まれた。歴史と伝統と国土に育まれてきた、温かい「日本人のまほろば」を取り戻し、「まほろば」を復活させること、それが「まほろば塾」の活動である。



(上)薬師寺まほろば塾 宮崎県 都城総合文化ホールにて (下)東京まほろば塾 三越劇場(日本橋三越)にて



るのも良いですが、「古寺巡礼」という言葉にもありますように個人で奈良のお寺を歩いて巡ってもらえれば。その場に足を踏み入れることで何かを感じ取り、体験することができ、場所そのものにも愛着が湧きます。愛着のある場所には魂が宿り、それは仏教の教えの素晴らしさを知るきっかけにもなるでしょう。新たに管主となった私に課せられた役目というのは、人々の思いが形となって完成した空間に魂を入れることです。これからどれだけ場を活用して愛される場所、仏心の宿る場所にしていくか。そのために本来の寺のあるべき姿に立ち戻することは必然なのではないでしょうか。

お寺を開放し、本来の魅力伝えることが使命

編集部 奈良県では現在観光誘致のためにいろいろな施策、イベントの企画が進められています。地域や行政、当協会との連携についてご意見をお聞かせください。

村上管主 奈良は隣接する京都や大阪と比べても、多数の名所があるにもかかわらず宿泊施設が少ないため、これまでは夜8時



写経会の様子

以降には店の灯りも落ち、閑散としてしまいがちでした。しかし近年では「燈花会」をはじめ、寺院でのコンサートなどイベント活動を積極的に行なうことで賑わいを見せ、奈良の街と寺院とが一体となった取り組みが広がっています。

また、海外に向けての情報発信などはなかなか難しいところなので、そういった弱い面を行政のサポートがあれば良いですね。この「寺社Now」もお寺の魅力の発信源となっているのは嬉しい限りです。多くの方に奈良の魅力を知ってもらうためにも地域や協会との連携を今後も強化して行きたいです。

悠久の歴史を見守ってきたであろう木々を眺めながらゆったりと語ってくださった村上管主。管主の言葉通り、ここを訪れる人が感じる愛着は仏心の種となり、いずれは花を咲かせて実を結ぶのかもしれない。新管主として地道に布教の種を蒔き続けることこそが、今後の仏教の発展と奈良の発展を望む村上管主の信念と言えるだろう。



法相宗大本山 薬師寺

〒630-8563
奈良県奈良市西ノ京町 457
TEL 0742-33-6001
<http://www.nara-yakushiji.com>



(右上)木造地藏菩薩半跏像はクスノキの寄木造り。各部材の大半が当時のままである点で貴重だと認められている

(右下)木造地藏菩薩半跏像が納まる地藏堂(左上)横から見ると丸くふくよかな輪郭と柔和な顔立ちがよくわかる



木造地藏菩薩半跏像

全てを包容する力と親しみやすさに癒される



曹洞宗 金山 功山寺

〒752-0979
山口県下関市長府川端1丁目2-3
TEL : 083-245-0258
<http://www.npweb.com/kouzanji/>



城下の面影が今も残る町並みに、堂々とした佇まいの寺院がある。1320(元応2)年に開山し、後に長府毛利家代々の香華寺として手厚く庇護された功山寺。幕末の志士、高杉晋作が挙兵した寺としても有名である。その総門左手にある地藏堂に安置されているのが、山口県指定文化財の「木造地藏菩薩半跏像」だ。

平安時代後期の作といわれる座高135cmの大像で、丸くふくよかな輪郭と柔和な顔立ちがなんとも温かい。踏み下げて今にも動き出しそうな左足は肉付きがよく、ずっしりとした存在感がある。「地藏とは、文字通り『大地の蔵』であり、迷う人々の全てを包容します。そして外見はとても親しみやすい。この『庶民性』が地藏菩薩の魅力ではないでしょうか」と、有福孝岳住職。国宝仏殿など宝物が多い同寺の中では、ひと際目立つわけではないが『延命地藏菩薩』として人々の信仰は厚く、朝夕問わず参拝者が多いという。毎年8月24日には扉を開放し、地藏盆の法要が執り行われる。この『地藏菩薩』について有住職は「いまだに寺との由縁や作者が不明であるゆえ、今後の研究が待たれる」とも語る。

葵の紋章が浮かび上がる鳥居派の作

絵馬 三国志三傑図



力強い線で描かれた蜀の皇帝劉備の忠臣たち。左上より時計回りに関羽、諸葛孔明、張飛
(左下)絵馬の右下隅に鳥居忠次の名が読める



田村神社

〒963-1162
福島県郡山市田村町山中字本郷135
TEL: 024-955-2630

中央が諸葛孔明、右に張飛、左に関羽、蜀の皇帝劉備の忠臣が描かれている。右下の穴から3人の軍議を覗いている構図が面白い。田村神社本殿にある浮世絵師鳥居忠次作「三国志三傑図」は、縦180cm、横270cmもの家型大絵馬で、福島県の重要文化財に指定されている。

絵の左上には消した跡を残す葵の御紋がある。明治時代に消されたのだろうが、徳川家ゆかりの者が国家の安泰を願って奉納したものと考えられる。大和絵に見られる左上からの視線で捉えた吹抜屋台という画法で描かれ、忠次の名の左には入口の穴があり内部を覗き込んだ展開図となっている。この絵馬を含め田村神社には県や市の重要文化財が9つもある。歴史は古く、坂上田村麻呂が聖観音像を奉納したことに始まる。三春(現田村郡三春町)の姫君、愛姫が伊達政宗への嫁入り前に参詣し、桜を植えたという記録も残る。「先日、枯れた愛姫桜の跡に新しい桜の植樹式を行いました。例大祭の奉納相撲も続いています。歴史を伝えるためにもこうして形を残してゆきたい」と遠藤昌弘宮司。神社のある山の下草刈りは地域の人が総出で行うなど、伝統は粛々と守られている。

トレンドNow

今話題のトレンドの波は寺社界にもジワジワ押し寄せています！

トレンド
発信



国内外の専門書が揃う「旅の図書館」が南青山に移転リニューアル

日本各地、世界各国の旅や観光文化に関する図書をはじめ、地図、旅行雑誌、時刻表、また古書や学術書など幅広い資料を所蔵する専門図書館「旅の図書館」。1978(昭和53)年のオープン以来、本の閲覧(無料)だけでなく、特別展示の開催や専門家による講演なども話題に。そんな旅や観光のための学び場でもある「旅の図書館」が、2016(平成28)年10月3日、観光の研究と実務に役立つ専門図書館としての充実を目指し、南青山にリニューアルオープン。これまで収蔵してきた旅行や観光に関する各種図書に加え、公益財団法人日本交通公社の調査研究部門が収集してきた統計や調査研究報告書などを新たに公開し、蔵書規模を3万5千冊から6万冊へと大幅に増やした。旅行愛好家や観光研究者のニーズをより想定した日本有数の図書館としてはもちろん、誰もが気軽に集い語り合える交流の場として活用できる。

寺社との関わりも深い観光政策や観光地づくりの“現場に活かすヒント”が、専門図書館ならではの観点で所蔵されているので、ぜひ注目したい。

<新住所>〒107-0062 東京都港区南青山二丁目7番29号 日本交通公社ビル

開館時間：月曜～金曜 10:30～17:00

休館日：土曜・日曜・毎月第4水曜・年末年始・その他



旅の図書館の中の様子。上：ライブラリープラザ、下：ガーデンラウンジ

<http://www.jtb.or.jp/library>

厳島神社で2.5次元ミュージカルを上演「GYAO!」特設サイトでの配信も実現

今、日本のエンタテインメント界において急速に市場を拡大している「2.5次元ミュージカル」。「2.5次元ミュージカル」とは、2次元の漫画・アニメ・ゲームを原作とする3次元の舞台コンテンツの総称で、2015年には東京・渋谷に専用劇場である「AiiA 2.5 Theater Tokyo」が誕生するなど、人気は急増する一方だ。また、日本の漫画やアニメ、ゲームは世界各国にファンが存在しているだけに、今後のインバウンドへの効果も期待されている。

そんな「2.5次元ミュージカル」作品の1つで、絶大な人気を誇るミュージカル「刀剣乱舞」が、11月に国宝・厳島神社にて上演された。名立たる刀剣が戦士の姿になった刀剣男士を育成するシミュレーションゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」をミュージカル化。本公演は厳島神社の世界遺産登録20周年記念奉納行事として特別上演され、映像配信サービス「GYAO!」が新たに開設した2.5次元ミュージカル専用特設サイト「ニコステ」の第一弾企画として、中継によって配信された。日本の国宝である由緒正しい舞台での、日本発祥の最新エンタテインメントの上演、さらには最新映像コンテンツによる希少な生配信は、大きな話題を集めた。

<https://www.j25musical.jp/stage/9>



© ミュージカル『刀剣乱舞』製作委員会



チームラボ 代表

猪子 寿之

1977 (昭和52) 年生まれ。2001 (平成13) 年東京大学卒業と同時にチームラボ設立。チームラボは様々な分野のスペシャリストから構成されるウルトラテクノロジスト集団。アート、サイエンス、テクノロジー、クリエイティビティの境界を越えて、集団的創造をコンセプトに活動している。

人と呼応し、神秘的な空間と 一体となれるアートによって 寺社が秘める ポテンシャルを引き出す



2015 (平成27) 年8月、福井の神明神社で
開催された展示「神明かり」の様子
<https://www.team-lab.net/jp/e/shinmeijinja/>



2016 (平成28) 年8月、京都の下鴨神社
で開催された展示「下鴨神社 糺の森の
光の祭 Art by teamLab」 <http://light-festival.team-lab.net/>

アートによって特別な場所と一体感を 感じて欲しい

豊かな自然風景や近代的な都市空間にデジタルを組み合わせた“Digitized Nature, Digitized City 自然が自然のままアートになる、街が街のままアートになる”をグローバルに展開しているチームラボの猪子寿之さん。そんなチームラボが昨年8月17日～31日に京都・下鴨神社(賀茂御祖神社)の糺の森で『下鴨神社 糺の森の光の祭 Art by teamLab』を開催した。「長い歴史と豊かな自然に囲まれ、世界遺産である糺の森でのプロジェクトは非常に魅力的でした。歴史的背景を知るとその素晴らしさがさらにわかる。私たちが手がけるデジタルアートによって興味をもってもらえるキッカケになればと思いました」。手がけたのは、森の参道を光のアート空間にし、来場者の動きに合わせて光が変化していく作品「呼応する木々 - 下鴨神社 糺の森」と、楼門の中の空間にただよう光の球体の作品「呼応する球体 - 下鴨神社 糺の森」だ。開催期間中たくさんのお客さんが訪れた。「大勢の人が同じものを見るのではなく、人と呼応して変化していく作品です。自分に近いものとインタラクション(相互作用)して広がることで、その場所との一体感を感じてほしい。昔の人は森や特別な場所と一体感を持つことで宗教体験をしていたんだと思います。都市化する現代社会では、アートによって擬似的に体験してもらえたら」と猪子さんは語る。

歴史のある寺社とアートの融合に期待

歴史があり、神秘的な場所との相性が良いデジタルアート。チームラボでは下鴨神社のほか、福井・神明神社や東京・上野公園不忍池などでアートプロジェクトを多数展開している。「神秘的な場所にはパワーがあり、アートと融合することによって多くの人を呼ぶ可能性があります。世界中から人を集められるのは歴史とアートです。歴史ある寺社はすごいポテンシャルを秘めているので、今後も誘っていただければ各地の寺社でアートプロジェクトを積極的に行っていきたいですね」。歴史あるものが好きで、自分のことを必要としてくれる人たちと共に生きていきたいという想いも語ってくれた猪子さん。良い作品を生み出すことで世界を変えていくという強い思いを持って突き進む、チームラボの今後の展開に注目したい。



チームラボ

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-11-6 東接本郷ビル 5F
TEL. 03-5804-2356 <https://www.team-lab.net/jp/>

宿坊ポータルサイト「和空」に掲載中の宿坊を紹介。今回は番外編として、信貴山にある三院の宿坊をクローズアップし、さまざまなお話を伺います。



信貴山 成福院



奈良・信貴山



信貴山 玉蔵院



信貴山 千手院

静かに歴史を刻む奈良・信貴山 三院の宿坊から学ぶ現代の宿坊のあり方

**信貴山本山の年間行事を
一体となつて支える三院**

聖徳太子が「寅の歳・寅の日・寅の刻」に毘沙門天王の力を借りて世の平安を取り戻したと伝えられるこの地は、聖徳太子によって信じ貴ぶべき山として「信貴山」と名付けられた。いにしえから脈々と続く信仰はこの地に根付き、信貴山本山の塔頭として、長きに渡り本山の一年を通して行われる、法要をはじめとする約10回の主要行事の運営を互いに支え合い、宿坊として参拝者を受け入れてきた三院は、今、都市近郊型の宿坊としても注目を集めている。千手院、成福院、玉蔵院の宿坊に、現代における宿坊のあり方、それぞれの運営方法や新たな取り組みについて伺った。

**伝統と歴史が濃厚に香る
信貴山最古の宿坊**

信貴山 千手院

千手院は山内最古の寺で、信貴山



信貴山 千手院 田中眞瑞貴主

寺を代表する住職の住む自坊とされた。宿坊としても最も歴史があり、江戸時代から現代まで信仰を求めめる人々に愛されてきた。池泉庭園を眺められる宿坊としても知られ、その庭は茶人や建築家として名高い大名である小堀遠州が作庭したと伝えられている。

また、江戸の名残を残す同院の宿坊『信徒会館』は絢爛豪華な襖絵やノスタルジックな大正ガラスなど、時代を超越した色彩が溢れる。「見える世界ばかりを追う今の世だからこそ、見えないものを満たす空間でありたい」と語る田中眞瑞貴主。同院が心がけているのが、本来の宿坊の在り方として「本山の毘沙門様とご縁を結んでいただく」を貫くこと。実際に宿泊客の大半が朝のお勤めに自主的に参加し、写経や坐禅を体験するという。全体の2割が欧米からの外国人だが、他の宿泊者同様にお勤めに励むそう。「自らの浄化を目的に訪れ、毎朝の護摩行や修行体験を受ける人が多いです。無論現代のニーズに合わせて快適に過ごしていただく工夫はありますが、根本にあるのは



信徒会館のお部屋

信貴山 成福院

昔のままの宿坊の姿です」伝統を重んじる姿勢が感じられる。

英気を養う宿坊の要となる
三つの「R」の真髄を紐解く

信貴山真言宗の大本山である成福院。宿坊ならではの静謐さや言うまでもなく、足を踏み入れて感じるはそのモダンさと心地良さ。実はこの宿坊の設計は文化勲章も受賞した村野藤吾氏によるもので、1970（昭和45）年に大阪万博に合わせて建て替えられたという。今なお当時の斬新さとモダンさを湛える。鈴木貴晶貫主は同院の魅力について「せわしない現代に生きる人々の気を養うための宿坊でありたいというのが基幹にあり、現在はリセット・リフレッシュ・リラクセスの三つの「R」を大切にしています。まずは「R」でくつろぎ癒される、そして宿泊客の目的に合わせて祈願や祈祷、相談などを行い、五感で信貴山の自然や信仰



信貴山 成福院 鈴木貴晶貫主

を体感できる空間作りを意識しています」と語る。「信貴山はご祈願するお寺ですので、遠方から来られる参拝者にもなるべく長く住職と接していただくようにするのが宿坊の役割です」誰もが気軽に受けられるよう1000円という低価格で祈祷を行う「ワンコイン祈禱」といった新しい取り組みを実現するなど、固定概念に縛られず宿坊に新風を吹き込み続けている。

時代の流れに
柔軟に姿を
変える宿坊



成福院の精進料理

信貴山 玉蔵院

玉蔵院は、大正と平成の建替え時には古材を随所に取り入れ、その空間が歴史の長さを感じさせる造りとなっている。

由緒ある寺でありながらも宿坊は非常にオープンで、参拝や修行体験を目的に訪れる人のほか、観光客にも広く開放しているのが特徴だ。現在は日本の伝統ある場所や宿泊したいと希望する外国人観光客など、国



信貴山 玉蔵院 野澤密孝貫主

内外から多彩なゲストが訪れる。宿坊内にはEnglish完備の談話室もあり、ネット環境が整っているのも現代的。こういったサービスについて野澤密孝貫主は「世の流れにに応じた変化は必然。しかしその根底にあるのは布教であり、宿泊することで心癒され、日本の伝統的な精神世界を味わってもらえたら」という柔軟な考え方をしながらも「宿坊はご本山を身近に感じていただく、布教のひとつ」という姿勢を貫く。実際に



玉蔵院の個室

宿泊客の大半が朝の祈祷に参加し、多かれ少なかれ宗教の教えに触れて宿を後にするのだとか。泊まる・体験するといった宿坊の在り方を越えたおもてなし精神こそ、同宿坊の要だろう。

今なお、戦国時代に当地にあった信貴山城の城址保全のため、信貴山観光協会や地域住民と共に寺院も協力して清掃活動が進められている。地域振興活動にも積極的に取り組む寺院の今後に注目したい。

信貴山 玉蔵院

住所：〒636-0923
 奈良県生駒郡平群町信貴山2280
 TEL：0745-72-2881
<http://www.gyokuzo.com/>
 客室数：40室
 収容人数：200名
 主な施設：大浴場、中庭、茶室

信貴山 成福院

住所：〒636-0923
 奈良県生駒郡平群町信貴山2280
 TEL：0745-72-2581
<http://www.jyofukuin.jp/>
 客室数：12室
 収容人数：40名弱
 主な施設：大広間、浴場

信貴山 千手院

住所：〒636-0923
 奈良県生駒郡平群町信貴山2280
 TEL：0745-72-4481
<http://www.senjyuin.or.jp/>
 客室数：18室
 収容人数：80名
 主な施設：大浴場、食堂、喫茶スペース

宿坊とビジネスの融合に必要な『黄金文脈』

寺社旅研究家・宿坊研究会代表／堀内克彦



石川県羽咋市の気多大社の古文書には、空を飛ぶ不思議な物体について書かれた記述が残されている



犬同伴の参拝環境を整えた東京にある武蔵御嶽神社

寺社の信仰や伝承を
現代のニーズにつなげる

私が講演で話すテーマの一つに、『黄金文脈』があります。これは私が考えた言葉で、「○」だから、「××する」という言葉のつながりを表したものです。具体的には寺社に古くからある信仰や伝承などを掘り起こし、それを現代ニーズとつなげる方法です。ストーリーほど複雑ではないけど、単語だけでは足りない。そこで「文脈」です。

例えば東京にある武蔵御嶽神社は、狼が神様として祀られています。そこで犬同伴の参拝環境を整えたところ、大きな話題となりました。ケーブルカーにはペットの乗車券が用意され、神社には犬の手水やお守り、愛犬のご祈祷所もあります。週末にはあちこちで犬を連れた参拝者を目にします。もしも「愛犬と一緒に参拝できる」だけであれば、ペットブームに乗ったサービスと思われませんが、「狼信仰の聖地だから」という文脈があれば、説得力が変わります。

では現在、坐禅と眠りに関する医学研究と協力し、宿坊では禅を用いた良質な眠りも提唱しています。

石川県羽咋市の気多大社にある古文書『古縁起』には、空を飛ぶ不思議な物体について書かれた記述があります。そこでUFOの街としてPRを開始し、地元青年団の活動から国際会議にまで結びつけました。本物のロケットをNASAから購入した「コスモアイル羽咋」は人気を呼び、地域活性化の成功例として語られています。

黄金文脈を宿坊に活用

こうした『黄金文脈』は宿坊にも活用できます。平安時代から続く歴史を活用し、宿坊を「お寺や神社の信仰を伝える場」とすることで、ビジネス目的だけではなく、寺社の宿として意味付けできます。

1000年以上も続く日本固有の文化だから、宿坊の火を途絶えさせてはならない。信仰の場として続いた歴史があるから、寺社を宿にする意義があります。宿坊ファンという新しい概念まで生まれてきた今、宿坊の中心を掘り下げる作業も今後さらに不可欠になっていきます。

宿坊新規開設をご検討の寺社様・運営に関する
お悩みを抱える宿坊様へ

サポート1 宿坊開設の計画・立案から、各種手続きなどトータルでサポートします。

サポート2 営業開始後も継続的に集客プロモーションなど運営についてもサポートします。

■お問い合わせ先

株式会社和空プロジェクト 〒530-0044 大阪市北区東天満1-11-13 AXIS 南森町ビル9F
TEL:06-4801-8211 FAX:06-4801-8221 <http://waqoo-pj.jp>

監修：一般社団法人 全国寺社観光協会

ほりうちかつひこ
堀内克彦
プロフィール

寺社旅研究家・
宿坊研究会代表。

「人生を変える寺社巡り」がテーマの寺社旅研究家。各地で寺社活性化・地域活性化の講演を実施し、寺院コンサルタントとしても活動中。著書に『宿坊に泊まる』（小学館文庫）、『こころ美しく京のお寺で修行体験』（淡交社）、『恋に効く！ えんむすびお守りと名所』（山と溪谷社）など。

職人技

伝統と文化を継承する職人名鑑



やさしい日本の景色に溶け込む 提灯を守り続ける



2



3



4



7



6



5

1. 張り作業をする伏谷幸七さん
2. 提灯の型に枠組みのヒゴをまきつける作業の様子
3. 提灯の型にあわせて和紙を切っていく
4. 糊付け作業の様子
- 5.6. 仕上がって実際に飾られた提灯
7. 提灯の型

有限会社 伏谷商店

〒467-0864
愛知県名古屋瑞穂区
豆田町3-5
TEL.052-881-9237
<http://www.fushitani.co.jp/>

夜の帳が下りるころ、境内に吊るされた御神燈に灯りがともされ、人々が集まり始める。そんな情緒あふれる風景に欠かせない提灯を、一つひとつ手作業で作り続けているのが伏谷商店の創業者で今は会長の伏谷幸七さんだ。

戦後の新制中学を卒業した伏谷さんは、名古屋市内の提灯工房で足掛け12年の修行を開始。「仕事を教えてもらったことは一度もない。その時分の職人は見て覚える、それが当たり前の世界」と当時を振り返る伏谷さん。修業時代を含め、提灯作り一筋66年。「昔、占い師に続けられたいことがあると言われたことで今の私がある」と穏やかに話す。

江戸時代から伝わる伝統技法にはこだわりますが、材料や道具は日進月歩。「昔は枠組みのヒゴには竹を使ったが、それが針金を経て和紙を巻いたワイヤーに変わった」。それにより、より糊が打ちやすく、和紙が張りやすくなった。

最近では大量生産されたものや中国製が多く出回っているが、伏谷さんはひと目で見分けられると言います。「一番難しい張りの作業を見れば分かる。機械で巻き付けるように張るのは至難の業」

これからも十年二日のごとく、提灯のやさしくあたたかい灯りは、職人の手によって守られていく。



風まかせ 12

野田博明



錦織圭選手もびつくり、不滅の法灯奇跡のラリー

2016年も世界ランク上位八名で争われるATPワールドツアー・ファイナルに錦織圭選手が三年連続で出場を果たした。

エアKなど遊び心と創造力にあふれたプレススタイルで人気のテニス界きつてのスターである錦織選手もびつくりの奇跡のラリーのお話をここでしようと思う。

と千二百年もの間、炎を絶やすことのない「不滅の法灯」と呼ばれるやんごとない灯火だという。

比叡山延暦寺を開いたのが伝教大師最澄であることはわたしも知っている。しかし、入山した最澄が根本中堂のもととなる一乗止観院という草庵をむすび、そこに点した灯こそが今に続く法灯の明かりなのだ、今回、いろいろ調べ物をして初めて知った。

その最澄さん、俗姓を三津首広野(ひろの)といい、神護景雲元年(767)に近江国滋賀郡古市郷(大津市)に生まれている。延暦寺の護法神である日吉大社

の大鳥居を下つてすぐの生源寺という変哲もないお寺が生誕地とされている。境内は幅一間ほどの簡素な山門をくぐって左に釣鐘堂、右に最澄が産湯を使つたという井戸を配すほか正面に本堂がポツンと建っているのみである。天下の天台宗の宗祖生誕の地とは思えぬなんの衞いもないあつげらんかんとしたお寺である。東西両院を擁す広大な敷地に建つ弘法大師の生誕地・善通寺と比べると、あまりの較差に拍子抜けといおうか戸惑いを覚えた。

空海が地方豪族の王子であつたことに対し、最澄の父の百枝にはもちろん官位もなく、その

繫累にも空海のような中央政界と深い関係を有す人物群も見当たらない。いわばごく普通の農家であつたといわれている。そんな出自が生誕地の今に至る出来栄えにも影響するのかもしれない鼻白む思いがした。

ただ、最澄研究の一級史料である「叡山大師伝」は三津首氏が後漢王朝最後の皇帝である献帝の苗裔、登万貴王の後裔であつたと述べている。さらに「新撰姓氏録」や「続日本後紀」には、

わが国に渡來した献帝の末裔であるとする氏族として近江国滋賀郡の豪族である大友氏・穴太氏・錦部氏らの名を挙げる。

一方で日本書紀は渡來人の雄である大和の東漢氏も献帝の末裔であると云い、阿智王が始祖であると記している。また、そ

の漢人系の渡來人が近江国に盛んに移住したことも処々で述べている。三津首がそんな東漢氏の分派集団である志賀漢人にぶらさがる一族であつたことは確かであろう。

京阪電鉄の近江神宮前駅付近に近江大津宮錦織遺跡がある。天智天皇が遷都した大津宮の中心部で生源寺から南へ5kmの場所にあるが、同じ始祖神話を語り継ぐ氏族がこの近辺に住んでいたことがわかる。

琵琶湖を擁す古代交通の要衝地である大津宮の跡地に、遷都(天智六年)のちようど百年後に生まれたのが最澄なのである。そして、一二歳で近江国分寺に入寺し、二〇歳のときに東大寺で僧戒をうけ国家公認の僧侶となつた。その三か月後に比



6



7



8

- 1 文珠楼から比叡山根本中堂を
- 2 最澄生誕地に建つ生源寺本堂
- 3 生源寺内にある最澄産湯の井戸
- 4 近江大津宮錦織遺跡第一地点
- 5 立石寺の香の岩と五大堂
- 6 立石寺本堂 根本中堂
- 7 澄銅像の後ろに信濃比叡広拯院
- 8 阿智神社奥宮

叡山に登り、一二年間の禅行生活に入る。僧侶として将来を約束されたのに、何故、入山苦行を決断したのか興味は尽きないが、ここでは叡山の草庵に点された灯火に話を戻すことにしよう。実はこの法灯、幾多の災禍を乗り越えて奇跡的にその灯をつないできているのである。

昨年、みちのくの紅葉を観賞しようと「閑さや岩にしみ入蟬の聲」の芭蕉の句で有名な立石寺、通称、山寺を参詣した。貞観二年（860）、清和天皇の勅命を受けた天台宗第三祖・慈覚大師圓仁により開かれたお寺である。麓からつづく千百段の石段を登っていくにしたがい紅葉の彩りが際立ってくる様はみちのくの秋を実感させるものであった。その立石寺の本堂である根本中堂の内陣に、小さな「不滅

の法灯」が燈されていたのである。さて比叡山であるが、読者も周知のごとく織田信長による悪名高い焼き討ち事件に遭っている。元龜二年（1571）のこの惨劇は麓の日吉大社から根本中堂など全山五百有余の堂宇を灰燼に帰し、数千人の僧侶、女人らを斬殺したとされる。

そんな酸鼻を極めた事件のなか、「不滅の法灯」も当然ながら業火のなかで命脈を絶たれた。それでは万事休したはずなのに不滅と謳っているのは何故か、種明かしをしなければなるまい。

立石寺の「不滅の法灯」は開山の折に比叡山延暦寺より分灯を受けたものであった。しかし、大永元年（1521）に天童頼長の兵火をうけ堂宇は壊滅、法灯の火も消え失せた。その22年

後の天文二年（1543）に最上義守が再建を果たすが、その際に再度、比叡山より分灯を受けていたのである。この山深いお寺で守り継がれてきた燈火こそが、信長により命脈を絶たれた延暦寺の法灯に「不滅の冠」を点ける種火となったのである。

延暦寺の法灯はそれまでも奇妙なまでにその炎を絶やさずにきた。元暦二年（1185）に山背を襲った地震では無名の一法師が法灯を救い出し、三日後の余震では根本中堂に四灯あった常灯明のうち唯一、最澄の法灯のみが消えなかったと源平盛衰記は記す。さらに永享七年（1435）不審火が発生したが、根本中堂の本尊は焼失したのに法灯の灯は絶えることはなかったという。そこにわたしは人智では計れぬ神秘の力を感じ

る。最澄は関東地方に布教伝道に向かう途次、旅人が泊る無料の宿を作った。平成十七年（2005）に延暦寺から法灯を分与された信濃比叡広拯院という寺院がその後身にあたる。当院は最澄に所縁の深い阿智王の末裔が阿智神社を祀る下伊那郡阿智村に位置している。奇しき仏縁というべきか、漢人の末裔の住む地であるゆえの最澄の施であったのか今では知る由もないが、広拯院境内には伝教大師の銅像がその地を見守るかのように静かに建っている。

さて、錦織選手は島根県出身である。珍しい苗字ではあるが、島根県では二五〇人に一人は錦織さんだという。大和王朝はある時期から特殊技能を有す錦織一族を近江から石見や出雲、上

総などに集団移動させた。それが現在もその地方に同姓が多い原因なのだという。つまり、はるかに遡れば錦織選手にとって三津首出身の最澄はいわば分家のオジサンということになるのかもしれない。そんな最澄の点した法灯がみちのくのお寺と奇跡的な灯火のラリーをつづけたことで、命をつなぐ大切さを衆生に諭したのだと思う。

最澄はその著『山家学生式』で、「千里を照らす者も一隅を守る者もどちらも国の宝として尊敬すべき者である」と云う。人それぞれ分に応じた役割を全うする者が尊敬されるのだと。

野田博明 (のだ・ひろあき)

昭和26年4月生まれの65歳。昭和50年3月、東京大学卒業と同時に日本興業銀行入行。広報部長・管理部長などを経て、みずほホールディングス監査役などを歴任。平成23年に退任。一般社団法人 全日本社寺観光連盟 理事。趣味は神社仏閣巡りを兼ねた旅とグルメ。日本書紀など古代史が大好き。



四季巡り 華景色

常立寺じょうりつじの 蠟梅ろうばい



【常立寺について】神奈川県藤沢市片瀬3-14-3

宗 派:日蓮宗

山 号:龍口山

寺 号:常立寺

創建年:1532(享禄5)年

撮影 原田 寛 鎌倉市在住。古都グラファーとして、日本全国の古都や歴史の街並みを中心に撮影活動が続いている。日本写真家協会会員。

1532(享禄5)年、龍ノ口処刑場で処刑された者の霊を弔うために建てられた常立寺。鎌倉幕府第8代執権・北条時宗によって斬首された、元の国使・杜世忠(とせいちゆう)ら5人もこの寺に葬られた。毎年開催される大相撲の藤沢巡業に際しては、モンゴル出身の幕内・十両力士らが、元使五人塚を参拝することもある。早春のシダレウメ、秋のイチョウウ紅葉は鎌倉周辺を代表するほどの見事さで、多くの拝観者で賑わうが、新年早々の蠟梅も花の少ない季節を彩ってくれる。

寺社のみなさまのご要望にお応えして
広報活動をお手伝いします

プレスリリース(広報用資料)の受け付けを開始いたしました!

- 特別拝観や催し事(イベント含む)の開催
- 一般の方々に告知したい取り組み
- 他の寺社に告知したい取り組み
- 組織・人事の異動
- 新しい試み・事業
- 宿坊情報の掲載

など、貴社寺の情報を当協会までお送りください。

情報誌・ウェブ版「寺社Now」、
宿坊ポータルサイト「和空」、SNS、
関連ウェブメディアに記事が無償で掲載いたします!

なお、諸事情で掲載ができない場合もございます。あらかじめご了承ください。



<http://wa-qoo.com>



<http://jisya-now.com/>

ウェブ10万PV*
Facebook5万いいね!*
雑誌発行部数
3万部で発行!
※グループ合計

プレスリリースの資料や写真を下記までお送りください ※当協会から確認のご連絡をする場合がございますので、ご担当者のお名前、電話番号などの連絡先を必ずご明記願います。



郵便・宅配便で送付

一般社団法人 全国寺社観光協会 本部事務局
〒530-0044 大阪市北区東天満1-11-13 9F TEL:06-6360-9838



e-mailで送信

info@jisya-kk.jp
※件名にプレスリリースとご明記ください

バックナンバーのご案内

寺社の「いま」を伝える情報誌「寺社Now」は、全国の寺社に無償でお届けしています。

次号は
3月発行の
予定です。

監修

一般社団法人 全日本社寺観光連盟

発行人

一般社団法人 全国寺社観光協会

編集・制作協力

株式会社 関西びど

発行所

一般社団法人 全国寺社観光協会

(事務局)

〒530-0044

大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号

AXIS 南森町ビル 9F

Tel:06-6360-9838 Fax:06-6360-9848

寺社NOW

第1巻第12号 平成29年1月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権法で保護されています。
本誌の許諾なしに複製(コピー)したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載したりすることは違法となります。



vol.8

◆巻頭特集
地域の行政や組織と連携する寺社

◆インタビュー
大阪天満宮宮司
寺井種伯



vol.9

◆巻頭特集
寺社を中心とした街づくり
近年活気付く門前町の活動

◆シリーズ: 地域と霊場会
びわ湖百八霊場



vol.10

◆巻頭特集
建築物の耐震について考える

◆インタビュー
東北観光推進機構会長・
東日本旅客鉄道取締役会長
清野智



vol.11

◆巻頭特集
登録有形文化財建造物制度

◆クローズアップ
臨濟宗大本山天龍寺
塔頭 永明院 住職
國友憲昭

バックナンバーはWEBでもご覧いただけます。 jisya-now.com または

情報掲載、本誌に関する
お問合せは

一般社団法人 全国寺社観光協会 本部事務局
〒530-0044 大阪市北区東天満 1-11-13 9F
TEL: 06-6360-9838 FAX: 06-6360-9848 e-mail: info@jisya-kk.jp

【お詫びと訂正】

「寺社Now」2016(平成28)年11月発行Vol.11の、P19「活性人」の中で下記の誤りがございました。

- ・(誤) 安倍野電正先生 → (正) 阿部野電正先生
- ・(誤) 清水孝尚先生 → (正) 清水谷孝尚先生

ご本人ならびに関係者や読者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを謹んで深くお詫び申し上げ、訂正させていただきます。

より良い誌面作りのため、寺社の皆様の貴重なご意見をお聞かせください！

寺社Now 誌面アンケート

「寺社Now」ではより良い誌面をつくるために誌面についてのアンケートを実施しております。下記のアンケートの□内には✓を、()内にはご記入をいただき、下記まで本紙をファックスもしくは左のハガキ(切手不要)にてお送り願います。

Q1. 所属

寺院 神社

Q2. 今月号で面白かった記事はどれですか(複数回答可) ※丸数字に○を記入

- ①巻頭特集:文化財保護と観光支援における助成金と補助制度 ②EVENT REPORT:第11回「博多ライトアップウォーク 博多千年煌煌」 ③TOPICS:評価の時間と費用を大幅に軽減する「伝送鑑定」 ④PICK UP:外国人が正しく理解できる文化財の英語解説のあり方 ⑤集う、育む 体験レポート:西念寺・子ども食堂「あんのん子ども食堂」 ⑥行政・観光レポート:国府町まちづくり協議会が「日本遺産めぐりツアー」を企画・開催 ⑦インタビュー:法相宗大本山 薬師寺 管主 村上 太胤 ⑧うちのお宝:功山寺 木造地藏菩薩半跏像/田村神社 絵馬 三国志三傑図 ⑨トレンドNow:国内外の専門書が揃う「旅の図書館」が南青山に移転リニューアル/巖島神社で2.5次元ミュージカルを上演 ⑩活性人:チームラボ 代表 猪子 寿之 ⑪宿坊運営ノート番外編:静かに歴史を刻む奈良・信貴山 三院の宿坊から学ぶ現代の宿坊のあり方 ⑫宿坊研究会レポート:宿坊とビジネスの融合に必要な「黄金文脈」 ⑬職人技:有限会社 伏谷商店 ⑭野田博明 風まかせ:錦織圭選手もびっくり、不滅の法灯奇跡のラリー ⑮四季巡り 華景色:常立寺の繡梅

Q3. 以下の項目で、寺社の取り組みの事例として知りたいものはどれですか(複数回答可)

- 観光 外国人対応 宿坊新規開設・運営 寺社イベント 広報 地域振興 結婚式 後継者育成 土地活用
 その他 (ご記入ください:)

Q4. 今月号の記事、広告を見て実際に問い合わせた、もしくは興味を持った内容があれば教えてください。

広告を見て問い合わせた、あるいは興味を持ったところの会社・団体名:)

Q5. 以下の項目で、知りたい企業サービスはどれですか(複数回答可) ※丸数字に○を記入

- ①ホームページ ②SNS運用代行 ③アプリ開発 ④告知ツール制作(掲示物・ダイレクトメール・冊子・チラシなど)
 ⑤フリーWiFi ⑥自販機設置 ⑦喫煙所設置 ⑧清掃 ⑨老朽化・耐震対策 ⑩警備 ⑪保険 ⑫介護施設
 ⑬託児所 ⑭土地活用 ⑮資産運用 ⑯税金対策
 ⑰その他 (ご記入ください:)

Q6. 寺社Nowへのご要望・ご感想など

(ご記入ください:)

寺社Nowのバックナンバーおよび、寺社Nowの継続購読をご希望の場合は、下記の内容をご記入の上(□内✓をお願いします)、FAX送信してください。

<input type="checkbox"/> バックナンバー希望	ご希望のバックナンバーの号数に○をご記入ください ※複数可	<input type="checkbox"/> 継続購読希望
(Vol. 1	2 3 4 5 6 7 8 9	10 11)

寺社名	氏名
〒	
ご住所	
お電話番号	

< FAX >06-6360-9848

【個人情報の取り扱いについて】
ご記入いただいた個人情報は寺社Nowや同誌バックナンバーの発送および全国寺社観光協会からのご連絡以外には使用しません。

マンション



商業施設



賃貸住宅
「シャームゾン」



積水ハウスの 土地活用

オフィス



高齢者向け
住宅



クリニック



土地を活かす。地域が活きる。

土地活用とは、土地の価値を地域に活かすこと。積水ハウスは、住宅のリーディングカンパニーとして培ってきた総合力で土地の可能性を引き出してきました。入居者の多様なニーズに対応する賃貸住宅「シャームゾン」や高級感あふれる中高層マンション、時代が求める高齢者向け住宅など、地域貢献につながる土地活用を積水ハウスがご提案します。



積水ハウス株式会社 大阪特建支店

〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-93 梅田スカイビルガーデンシックス4F



特建くん
©積水ハウス2005

土地活用に関するご質問やご相談についてもお気軽にどうぞ。



0120-131-470

大阪特建支店

検索

資料をご希望の方は、フリーダイヤルでご請求ください。
ホームページからもお申し込みいただけます。



積水ハウスの賃貸住宅
「シャームゾン」総合カタログ



積水ハウス大阪特建支店 実例集
「Best Solutions」



挑戦の 数だけ、 保険が ある。

保険は、冒険から生まれた。
大航海という挑戦を助けるために、
勇気をつくるために、
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。
人は何かを始めることで前へ進み、
世界は新しく変わってゆく。
不安も、きっとあるだろう。
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。
挑戦する人、しない人。
充実した人生を送るのは、
どちらの人だろう。
人から愛され尊敬されるのは、
どちらの人だろう。
世の中を変えていくのは、
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a Good Company
東京海上日動



JOCゴールドパートナー(損害保険)